

分科会 15

訪問支援による支援をあらためて考える

コーディネーター：久永文恵（認定 NPO 法人コンボ）

野々上武司（訪問看護ステーション leaf）

出演者：望月明宏（横浜市神奈川区生活支援センター）

西村秋生（だるまさんクリニック）

長谷川裕太（岡崎クリニック）

佐川まこと（こうの会）

澤田高綱（一般社団法人てとて）

津坂治男（就労継続支援 B 型事業所ばれっと）

野々上武司（訪問看護ステーション leaf）

近年、アウトリーチサービスのさらなる充実が求められていますが、支援の実際については、まだまだ知られていない部分も大きいかと思えます。

この分科会では、福祉や医療、ピアスタッフの立場からの訪問活動実践報告、家族による ACT（訪問型地域生活支援プログラム）チームへの調査結果の報告、サービスを利用する立場からの話題提供など多方面からの発表を行いました。

各発表終了後には、参加者の皆さんで発表の感想などを共有していただきながらグループワークを行いました。各グループからひとつ発表者への質問などを考えていただき、後半のシンポジウムで議論を深めていきました。

●発表のポイント

- ①精神科訪問看護ステーション：ケアマネジメントの手法を用いた取り組みについて。
- ②地域移行・地域定着支援：横浜市障害者自立生活アシスタント事業の紹介。新たなサービスとして検討されている自立生活援助について。
- ③ACT を立ち上げた医師の立場から：訪問診療により自身の視点や意識の変化について。効果的なアウトリーチにしていくためにオープンダイアログの試みも行っていること。
- ④ACT における就労支援：ACT における就労支援について。IPS の紹介と実践。
- ⑤家族の立場から：ACT チームへの調査結果から見えること。サービスの必要性について。
- ⑥ピアスタッフとしての立場から：現在の活動紹介と今後期待する思いと可能性について。
- ⑦サービス利用者の立場から：自身の体験談とリカバリーについて。

●シンポジウムについて

参加者それぞれの立場からもたくさんの質問や意見が出ていました。

「サービスを利用したいと思っても、どこに相談すればいいかわからない」「制度の使い方がよくわからない」「アウトリーチを始めたけれど、職場内で行き詰まってしまう悶々としている」などといった意見が数多く聞かれました。

このようにいろいろな制度や支援活動があっても、まだまだ上手く活用されていないという現状や課題が改めて浮き彫りになった感じでした。これらの情報をもっと発信していく必要性を痛感しました。

また、この分科会を通して、アウトリーチ支援のさらなる充実と必要性、また、就労まで視野に入れた支援者意識の変化の重要性などについて考えるきっかけになったのではないかと思います。

《野々上武司（訪問看護ステーション leaf）》